

下大和田YPPの田起こし

渋谷 雄二(千葉市緑区在住)

5月9日は好天に恵まれウグイスのさえずりやシュレーゲルアオガエルの鳴き声も聞こえて絶好の「田起こし」日和となりました。雑木林の中では切り株から空に向かって優雅に飛び立って行く羽アリ(シロアリ)の大群や林床のさまざまな可憐な花も観察できました。



切り株に群がるヤマトシロアリ(撮影 網代春男)



ヤマトシロアリ(撮影 網代春男)

今回の作業「田起こし」まず田んぼの除草作業から始めることになりました。網代さんに田んぼで見られた植物をお聞きしたところ、イヌスギナ、セリ、タガラシ、ケキツネノボタン、ガマ、スズメノテッポウ等。芽が出始めたものではコナギ、アメリカセンダングサ、ミゾソバ、オモダカ、ヘラオモダカ等が確認されたそうです。子ども達は田んぼの水たまりにいるメダカやザリガニ、カエルやオタマジャクシを見つけて歓声を上げていました。

お米作りや谷津田の管理には年間を通していろいろな作業があり、「除草」や「田起こし」の作業はその一部に過ぎません。常に管理されている方々の地道な努力があってこそ収穫期を迎えられることを実感しました。

午前中の除草作業でいい汗を流した後は皆さんお楽しみのランチタイムです。福満さん、古川さんが愛情をこめて作っていただいた味噌汁はとても美味しかったです。

お昼休みを利用して南川さんから「やつだ大福帳」(江澤さんの素敵なイラスト入り)の利用説明がありました。元太君が作った「大福帳」に押すカブトムシの消しゴムスタンプはリアルで大好評でした。

さて、午後はいよいよ「田起こし」作業の開始です。

「田起こし」作業が始まってまもなく南川さん考案の谷津田運動会「花咲かじいさん」が開催されました。これは竹竿に桜の花びらに見立てた2cm×4cm位の発砲スチロールがたくさん入ったビニール袋を吊るし、落下する発砲スチロールを口や手で捕らえるゲームです。参加された皆さんは発砲スチロールをゲットしようと大奮闘していました。

「田起こし」は田んぼの土を耕し養分と酸素を取り入れることが目的です。私にとって「田起こし」は初体験でしたが、諸先輩方の作業を見習っているうちになんとか様になったような気がしました。

作業が一段落して谷津田を眺めると爽やかな5月の風が心地良く、とてもリラックスした気分になりました。



谷津田運動会「花咲かじいさん」(撮影 大友英寿)



産卵直前のカワトンボ



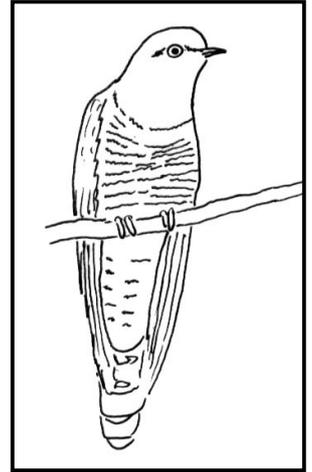
ホソミオツネトンボ



サラサヤンマ(いずれも撮影 網代春男)

ホトトギス

春の訪れを告げる鳥の声がウグイスの「ホ～ホケキョ」なら、夏の到来を知らせてくれるのがホトトギスの「テッペンカケタカ」です。下大和田や小山では例年5月になると南国から渡ってきたホトトギスの声が谷津に響き渡ります。ウグイス同様、ホトトギスも声は知っていても姿を見たことがない方が多いかもしれません。ホトトギスの声が聞こえたらその方向を見上げて見て下さい。谷津を囲む丘から丘へ渡る鳥の姿が見えたらそれがホトトギスです。ホトトギスは何と飛びながらよくさえずる鳥です。「特許許可局」と聞きなされる声は夜でも聞かれます。体の上面は灰色、お腹に白黒の縞模様の姿形はカッコウやツドリとそっくりですが、鳴き声が違うので鳴いてくれれば間違えることはないでしょう。この仲間の鳥は、ほかの鳥の巣に卵を産み付けて子育てを任せてしまう「託卵(たくらん)」という習性を持っていることで有名です。ホトトギスはウグイスに託卵し、ウグイスそっくりのチョコレート色の卵を産みます。ホトトギスの卵はウグイスよりも早く孵化(ふか)し、まだ眼も開かないヒナはウグイスの卵を背中に乗せて巣の外に放り出して巣を独占してしまいます。ぐんぐん成長してウグイスよりも大きくなったヒナに気づかずに餌を与えるウグイスの親は滑稽というか哀れな感じです。ウグイスとホトトギスの声が響き渡るすがすがしい谷津でこんなことが密かに起こっているのです。



とにかくよく鳴くホトトギスは昔から日本人に親しまれ、万葉の頃からさかんに歌に詠まれてきました。「ホトトギス来鳴き響(とよ)めば草取らむ 花橘を宿には植ゑずて(万葉集)」(ホトトギスが渡ってきて鳴いたら田の草を取るう...)

「いくばくの田をつくれればか郭公(ほととぎす)しでの田長(たをさ)を朝な朝な呼ぶ(古今集)」(ホトトギスが毎朝田長を呼んでいる。いったいどれくらいの田んぼを作っているのだらう)

「鳴かぬなら鳴くまで待とう時鳥(ホトトギス)・・・」と家康、秀吉、信長の性格をうたった歌も皆さんよくご存知ですね。そして、「目には青葉山ほととぎす初鯉」(江戸の俳人山口素堂)。漢字も様々で時鳥、子規、不如帰、杜宇、杜鵑、郭公、霍公、霍公鳥などなど。ほんとに愛されてきた野鳥です。

(高山邦明)

ちょっと豆知識

覚えておきたい日本の歌「夏は来ぬ」

この季節になるとふと口ずさみたくなる歌が「夏は来ぬ」です。初夏の田んぼや里山の風景がうまく歌い込められています。ウノハナ、ホトトギス、タチバナ、ホタル、オウチ(センダン)、クイナといった動植物、そして田植えと、この季節ならではの風物詩です。ホトトギスをウノハナやタチバナとセットにするのは万葉集の歌にもよく見られます。歌詞をご紹介しますので、ぜひじっくり味わって、谷津田で口ずさんでみて下さい。特に田植えにはぴったりの歌です。

「夏は来ぬ」 作詞 佐々木信綱、作曲 小山作之助

- | | |
|--|--|
| 1. 卵(う)の花の、匂う ^{*1} 垣根に
時鳥(ほととぎす) 早も来鳴きて
忍音(しのびね) ^{*2} もらず、夏は来ぬ | 2. 五月雨 ^{*3} のそそぐ山田に
早乙女が、裳裾(もすそ)ぬらして
玉苗(たまなえ)植うる、夏は来ぬ |
| 3. 橘(たちばな)の、薫るのきばの
窓近く、蛍飛びかい
おこたり諫(いさ)むる ^{*4} 、夏は来ぬ | 4. 棟(おうち) ^{*5} ちる、川べの宿の
門(かど)遠く、水鶏(くいな) ^{*5} 声して
夕月すずしき、夏は来ぬ |
| 5. 五月闇(さつきやみ)、蛍飛びかい
水鶏(くいな)鳴き、卵の花咲きて
早苗(さなえ)植えわたす、夏は来ぬ | |

- 注 *1 卵の花の匂う：白い花をたくさんつけるウノハナ。その白い色が映えること。
 *2 忍び音：渡ってきたばかりの控えめな鳴き声のこと。
 *3 旧暦5月の雨なので、梅雨の雨のこと。
 *4 おこたり諫むる：怠けるのを忠告する
 *5 棟(おうち)：紫色の花をつける高木のセンダン
 *5 水鶏(くいな)：恐らく初夏に渡ってきて田んぼなどで過ごすヒクイナのこと。「キョキョキョ」という鳴き声は夏の夜の風物詩だが、近年数が急減している。

(高山邦明)



里山たんけんレポート

第 112 回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2009年5月3日(日) くもり

斜面林ではフジの花が満開、ところどころ高い木を覆って咲いていました。田んぼはシュレーゲルアオガエルの声が響き、ニホンアカガエルは子ガエルになって畦に出ているものもありました。シオヤトンボのメスが産卵、オスはその上を警戒飛翔している姿もありました。カラスアゲハ、モンキアゲハが田んぼで吸水し、クロアゲハ、アオスジアゲハ、モンキチョウ、スジグロシロチョウ、ルリタテハ、キタテハ、ツバメシジミ、ベニシジミ、コチャバネセセリなども飛んでいました。川辺のショウブは花を咲かせ、カワトンボが周辺を優美に舞っていました。羽化したばかりのヤマサナエもいました。シロツメクサ、コメツブツメクサが絨毯を広げたように咲いていたり、水田雑草のタガラシ、ケキツネノボタン、最近では他ではあまり見なくなったキツネノボタンなども花盛りでした。広場ではミミナグサとオランダミミナグサを比較観察したり、カスマグサとカラスノエンドウを見て植物の名づけの由来などが話題になりました。ウグイスが絶え間なく囀り、ホオジロの囀りも聞けました。ツバメも田んぼの上を飛びまわって餌を探っていました。山の中はスミレの花がおわり、キンラン、キランソウ、ツクバキンモンソウ、ホウチャクソウ、マムシグサなどが花をつけていました。コジャノメ、ヒメウラナミジャノメなどチョウの姿もありました。赤ちゃんをおんぶしたり抱いたりして参加くださった方々もいらっしやいました。新緑に染まり、生きものいっぱいの谷津田の散策を楽しみました。

(参加者 大人 16 名、子ども 6 名； 報告：網代春男)

第 96 回 下大和田 YPP「みんなでワイワイ！田起こし」

2009年5月9日(土) 晴れ

冒頭の記事で渋谷さんに報告していただきました。

(参加者 大人 16 名、小学生 2 名、幼児 3 名)

第 97 回 下大和田 YPP「みんなでワイワイ！コシヒカリの田植え」

2009年5月16日(土) くもり

今回は稲毛の保育園に通う親子連れが大勢参加してくれて、田んぼは最初からたいへんなにぎわいでした。子どもと親御さんが交互に横一列に並んで田植えの始まり。泥が手足や洋服に付くことが気になったり、泥に足を取られて歩きづらかったり、最初はこわごわ恐る恐る... お父さん、お母さんにしがみついている子もいました。でも、だんだん慣れてくると、「あっ、カエル！」、「ザリガニ見つけ！」、「おっきな貝！」とお楽しの発見もあって、目が輝いてきます。しまいには田植えを放り出し、泥んこもへっちゃらで子どもたちだけで魚とりや泥遊びに熱中しはじめました。

残った作業はいつものように大人達の仕事。でも、田植えがおもしろくて最後まで大人に交じって田植えをしてくれた子もいました。みなさんのお陰でコシヒカリ田んぼとカヤネズミ田んぼにきれいに植え終えることができました。子どもたちは最後は名残惜しげに帰路につきました。

(参加者 大人 45 名、小中学生 12 名、幼児 22 名 報告：高山邦明)



第 44 回 小山町 YPP「コシヒカリの田植え」

2009年5月30日(土) くもり時々小雨

地元の方のお手伝いをしている田んぼにコシヒカリを植えました。主役は小学生たち。ヒモに沿って横一列に並んで植えていきます。植える分の苗を分けるのがなかなかうまくいかない子、早く植え終えて待ちきれない子、ニコニコの子、黙々丁寧に植えている子、それぞれ様々。だんだん疲れるし、退屈してきてしまうのですが、途中からヒモを使わない「自由植え」にしたら元気が復活して、結局、1時間半以上、田植えをしてくれました。一方、大人は草取りに専念。田んぼが盛り上がり水面が見えないほどにはびこった場所は鍬を使いながらとても力がある作業ですが、お話をしながらにぎやかに楽しく草取りをしました。皆さんのお陰で、4枚のうち3枚がきれいな田んぼになりました。お疲れさまです。

梅雨のはしりの天気の下、小さなアカガエルがあちこちではね、サワガニや大きなオニヤンマのヤゴが顔を出し、ハシリグモが動き回って、生きものたちもとてもにぎやかでした。

(参加者 大人 10 名、小学生 9 名、幼児 1 名； 報告：高山邦明)



< 谷津田・季節のたより >

小山町

- 5月1日 渡りの途中のキビタキがさえずる。シュレーゲルアオガエルの孵化が始まる(高山)。
- 5月24日 ドクダミが咲く。小さなアカガエルがたくさんはね回る(高山)。
- 5月27日 ホトギスの声を聞く(齊藤)。
- 5月30日 キセキレイが数羽の群れでにぎやかに鳴く。ホタルブクロやツクサが開花(高山)。

下大和田

- 5月1日 羽化直後のサラサヤンマ(下大和田初記録)が林縁にいた。アシ原からオオヨシキリの声がある(網代)。
- 5月9日 田んぼでホソミオツネトンボやアジアイトトンボが産卵。シオカラトンボが出現(高山)。
- 5月16日 オオシオカラトンボが羽化。今シーズン初(網代)。
- 5月21日 ホトギスの初鳴き、コクワガタが出現(網代)。
- 5月22日 ノウサギが現れ、後ろ姿ながら初めて撮った。ガマズミ、ウコギが満開に(網代)。

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ? と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPPのイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター (TEL&FAX: 043-223-7807 E-mail: hello@ceic.info/)

ご注意: ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないでください。

・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。

・小学生以下のおさんは保護者同伴で参加ください。

・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

第99回「田んぼの生きものと遊ぼう! & 田んぼの草取り」

田んぼで魚をつかまえたり、カエルと遊んだり、林でカブトムシを探したり、谷津の自然を楽しみたいと思います。ぐんぐん伸びる田んぼの草取りもしますのでご協力をお願いします。

日時: 2009年7月19日(日) 10:00~14:00、*小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)

集合: 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に10:00(JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで45分<千葉駅発8:53、9:08、9:23など> 料金は520円)

持ち物: 長靴、軍手、帽子、弁当、飲み物、敷物など。

参加費: 300円(資料代等)

主催: ちば環境情報センター 共催: ちば・谷津田フォーラム

第46回 小山町 YPP「古代米の田植え」

YPPの田んぼに黒米と緑米を植えます。生きものいっぱいの田んぼで楽しく作業をしましょう。

日時: 2009年6月13日(土) 古代米の田植え いずれも10:00~12:30 *小雨決行

場所: 千葉市緑区小山町 リンドウ広場
(ご連絡いただければ地図をお送りします)

持ち物: 長靴(できれば長め)、軍手、帽子、飲み物、敷物など

参加費: 100円(資料代など)

主催: ちば環境情報センター

第114回 下大和田7月の谷津田観察会とごみ拾い

人気のカブトムシやクワガタムシが樹液に群がる季節です。林縁ではシュレーゲルアオガエルの子が葉の上にとちょこんと乗っている姿も見られる頃です。夏の谷津田を散策します。午後まで時間の取れる方は田んぼの草取り作業にご協力いただければと思います。

日時: 2009年7月5日(日) 観察10~12時 午後は田んぼの作業など自由活動 *小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(下大和田 YPP に同じ)

集合: 下大和田 YPP に同じ

持ち物: 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など

参加費: 300円(資料代など)

主催: ちば・谷津田フォーラム 共催: ちば環境情報センター

編集後記 5月30日は時折小雨の降る、梅雨のはしりの中での田植えでした。天気良かったらな、と思ってしまうのですが、元々田植えは梅雨空の旧暦5月に行われていたもの。だから、田植えらしい天気だったということになりますね。「五月晴れ」は梅雨の合間の晴れ間のこと、「五月雨」は梅雨の雨。鯉のぼりは本来、梅雨空にまさに「水を得た魚」が元気に泳いでいたのです。季節感にずれがありますね。

(高山邦明)